

人に、自然に、やさしい地域づくりを目指して

2019.3.29

社会福祉法人 潤沢会
ワークステーション湯田・沢内

〒029-5612
岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-28-4
TEL0197-85-2019 FAX0197-81-2015

編集人／高橋和也
発行人／坂巻 熙
印刷／鶴田印刷株式会社

和と風と

No.66



敷地内除雪で隣の田に寄せられた大量の雪

堆雪場と駐車スペースを確保

当施設の南側に水田1枚（1、327㎡）が隣接しています。9月某日、地主の方が来所し、高齢になってきたので必要であれば当施設に売却したいとの申し出がありました。元より、隣接している水田ということで冬期間は堆雪場として借用していましたが、春先には遅くまで雪が消えず、砂利も入り込んでしまっている状況です。また、農産加工場、及び車庫の屋根の雪も水田に落ちている状況で、地主の方に多大なるご迷惑をお掛けしていました。

利用者が増加しているに伴い、公用車及び職員車両も増加。また、隣接している西和賀さわうち病院内に利用者の就労場所としてカフェ風を運営しており、そこへの移動は徒歩。病院へ出入りする車両も増えていることで、特に冬場の除雪が行き届いていません。利用者の安全を確保する上でも、施設全体として堆雪場、駐車スペースの確保が急務となりました。是が非でもほしいところではありますが、農地法により農地は農業者、あるいは農業を主とした法人でないと売買はできません。当法人は障がい者施設。農業を利用者の就労の場としていますが、農業を主としていた訳ではありません。何度も農業委員会へ足を運び、現状を説明し、検討を重ねました。その結果、農地としては購入できないが、宅地や雑種地へ農地転用することで購入は可能との方向性が見えてきました。事業計画書、図面、許可申請書、隣接宅同意書、土地改良区申請など、様々な書類を作成、その結果、一月31日に許可指令書が交付されました。

「隣の土地は借金してでも買え」と言われます。その言葉が過疎の西和賀町に当てはまるかは分かりませんが、堆雪場と駐車スペースを確保することにより、利用者がより安全に通所し生活できることは間違いありません。消雪後、土地の造成工事を始めることとなります。「広くなつてよかったね〜」利用者のうれしそうな笑顔を見るのが今から楽しみです。

事務長 高橋 健一

「出来ることから始めよう」「元気一番館」5月オープン

元川尻宮林署庁舎の2階を活用する「元気一番館」計画。様々な視点から活用方法を検討してきました。未だ課題は残っているものの、「出来ることから始めよう」をスローガンに、今年5月27日（土）のオープンを目指しています。



オープンを待つ微助人の家「元気一番館」

康維持、増進です。西和賀町の高齢化率は約47%。とは言っても元気高齢者がたくさんいます。こういった人たちが集まり、気軽に体力作りや友達作り、趣味活動の場として活用していただくことが狙いです。まずは、町内に30団体ある老人クラブとのタイアップ事業を町社会福祉協議会と計画中です。

文化的活動の場

体力の維持、増進と相まって大切なのが、文化的な活動です。そこで図書室も準備。当初は、西和賀町文化創造館「銀河ホール」にある町図書室の分室として予定し

元気一番館は、子供から高齢者まで誰もが利用でき、そこでの関わりを通して住民や町を元気にすることが最大の目的です。まず始めに取り組むのが元気高齢者の健

ていました。しかし、会館時間や曜日の折り合いがつかず、当面は当法人にある図書を活用。と言っても1,000冊以上は準備できしており、子供向けのおもちゃ図書館事業も一緒に移します。現在もご利用いただいている町事業の子育てサロンを含め、親と子、高齢者や障がい者が一緒になって楽しめるプログラムも検討中です。

制作、展示の場

当施設利用者はもちろん、町内の保育所や小中学校、各種団体が制作した作品を展示する場所としても考えています。また、清水ホール（交流ホール）では、制作活動をするための場所としても活用可能です。「制作はしているが、お披露目の機会が無い」「知識や技術を教える場が無い」「グループで制作活動したい」等、是非ご相談ください。

障がい者就労支援の場

元気一番館は地域交流の場として活用方法は無限です。そしてこういった活用がされることで、障がい者の仕事も増えることになりました。施設内の清掃や本の管理はもちろん、元気一番館の利用者の昼食としてワーク弁当をご注文い

ただくことでも仕事になるのです。

「出来ることから始めよう」

エレベーターや車椅子用のスロープなど、バリアフリー化に課題が残っています。誰でも利用できる施設であれば、当然整備が必要ですが。しかし、予算の都合上すぐに設置、整備は難しいのが現状です。当面は建物のバリアフリーではなく、人が創り出す心のバリアフリーで対応です。また健康器具等も、もう少し充実させたいところでは。「〇〇エレベーター」「〇〇スロープ」等、今流行のネーミングライツでこれらの課題が解決!!なんてことも期待しながら、「出来ることから始めよう」に取り組みます。

早速ですが・・・

4月27日（土）には、施設内のお披露目を兼ねてプレオープンイベントを開催します。今回は主に地域住民を対象とした講演会を開催します。なんと、講師に秋草学園短大先生、淑徳大学名誉教授の北野大先生をお招きしての講演会。今後も様々なイベントを開催できればと思っております。

高橋 和也

神秘的な景色に感動

西和賀町の真冬の風物詩「雪あかり2019 inにしわが」が2月9日(土)全町を挙げて開催されました。

今年も盛岡医療福祉専門学校から90名を超える学生がお手伝いに。にぎやかな雪あかりとなりました。



見事に灯ったみんなのあかり

西和賀さわうち病院の大駐車場をお借りしての雪あかり。利用者、職員、保護者、そして学生と教職員合わせて約130名で作りました。

駐車場の除雪で出来た巨大な雪山に段を作り、穴を掘りまくります。

テーマは「みんなのあかり」。多くの人が手をかけ、思い思いに作ります。学生は、事前に絵のフィルムも作ってきてくれました。昨年は強風と雪で半分以上点火

できず、悔しい思いをしましたが、今年は晴天、無風。点火作業もスムーズに進みました。

日中は正直統一感の無かった雪山。しかし、約800個のロソクに火が灯されると、なんとも神秘的な景色に。初めて雪あかり作りを体験した学生は、「すごい」「きれい」と大喜び。あの角度、この角度と夢中で記念撮影。間違いなく「イ〇スタ映え」したことでしよう。

高橋 和也



会話を楽しみながら制作する学生と利用者

「風声」



理事長
淑徳大学名誉教授
毎日新聞名誉職員
坂巻 熙

田んぼの埋立て

駐車場に隣接する田んぼ一枚(1,327平方m)を買った(一面参照)。冬の間、わずかな謝礼で駐車場の雪の捨て場に借りていた田んぼである。ところが、農家ではないので、田んぼとしては買えないのだ。仕方なく、手狭な駐車場を拡げるといふことで、農地変更の手続きをとり、買いつつた。

農業は、障がい者にとって、とてもよい「働く場」なのだ。時間に追われたり、対人関係の煩わしさもない。自然を相手にマイペースで働き、稔の喜びも実感できる。ワークステーションでも、設立以来17年間農業に取組んできた。今は、田んぼ40畝、畑60畝、桑20畝、ブルーベリー畑10畝を、農家から借りて作業している。ブルーベリーの採り放題、食べ放題の無料イベントは、保育園児に大好評だった。自前の農地は持てないまでも、人口減少と農家の高齢化で荒れる農地を、障がい者と施設で、少しでも守ろうと思っている。

しろ、ということなのだろうか。さらに、駐車場と堆雪場にするため、新年度になったら早々に、田んぼを砂利と土で埋め、舗装しなければならぬこと。高齢化と人口減少が進み、耕作放棄地が増えている過疎の山村だ。田んぼはダメでも、せめて草花などを植えられるか、と思うのだが、それも許可条件に反するからダメらしい。駐車場が拡げれば、いまの狭いところでやっている朝の体操も、少しは伸びのびとできるようなにはなるだろうが。でも、緑の保全、自然保護が言われる昨今、たとえ、小さな田んぼでも、埋め立てれば自然破壊に手を貸すことになるのではないかと、なんとも、スッキリしないのだ。

新年会と成人を祝う会



母からのサプライズお手紙にびっくり!!

1月24日、25日横手「ゆうゆうプラザ」で新年会が行われました。人数が多くなったこと、通院や施設外作業に出る利用者も全員参加できるよう2日に分けての開催となったものです。併せて、「成人を祝う会」で2人の利用者の門出を祝しました。

2人の新成人には、それぞれ、お母様からの手紙が贈られました。離れて暮らす息子の成長ぶりを、今は亡き「お父さんもきくと喜んでいいると思います。」とつづった母の思い。幼い頃から娘の頑張りや、案じながらも誇らしく思っていたご家族。元気に通所できて

いるこの毎日こそが幸せ、と。代読する職員も、静かに聴いている利用者も、母の気持ちになったり、娘や息子の気持ちになったり。普段は陽気なオジサン(笑)がぼろぼろ。涙をぬぐっています。母の手紙は良いもの。誰のどんな祝辞よりも胸を打ちます。

その後の新年会では、カラオケや、二人羽織でメイキヤップ。とんでもないところに口紅引かれたKさん、家族に見せたいとそのままの顔で帰宅。涙と笑いの2日間でした。

高橋 順子

会場に流れる空気も徐々に和み、雪解けの季節にマッチしたさわやかな研修会となりました。

施設長補佐 高橋 育子



神奈川県
小杉 皓男 さん

ありがとうございます

何を隠そう。いや、まったく隠すことはないのですが、この「和と風」とが拙宅に着くと、うれしくなつて私はすぐに「喜寿のハッピートーク」をまず読みます。今回もNo.33では「人は早かれ遅かれ一度は死ぬ。生ある今を充実して悔いなく生きなかつちや」と。「そうでしょ!小杉さん」と継ぎ足して相談役の声が聞えます。

現相談役の坂巻潤子さんとは1990年Eテレの前身NHK教育テレビの幼児・小学校低学年向け英語教育番組『えいごであそぼ』の立ち上げの時から、早や30年来のお付き合い。ずっと「文通」(これ、「ぶんつう」と読みます)しています。「スマホ」全盛の時代、先日も絵ハガキが届きました。「4月15日で80才!!」と「!」がふたつ付き。「人生って、これだから面白そう。長生きしましょう。」と。相談役の坂巻潤子さんは、いつも「マイサンシャイン」です。

今年中にカミさんと北上線ほつとゆだ駅に降り、グループホームの「微助人の家」をホームからしばし眺めたいと。待つててくださいね。相談役。

会場和む職員研修会



研修という名の職員リフレッシュ!?

一般社団法人東北音楽療法推進プロジェクトえころん 代表 智田邦徳氏を講師にお招きし、職員研修会が行われました。

歌い、踊り、リズムに合わせてリフレッシュ:そんなイメージの音楽療法。それを利用者支援の場で活かしたいと参加しました。が、違っていました。研修会が始まり、理論を交えながら1時間以上も年代に合わせた身近なクイズの問答。対象者からの「あゝ知っている!」という興味関心度を探り、引きつけていく導入のテクニク。押し付け支援ではなく、自然に聞く、話す、身体を動かしていくという、いわば関わりの基本となる入口の大切さを学びました。音楽療法には、『自己効力感』(*人が何らかの課題に直面した際、こうすればうまくいくはずだという期待感(結果期待)に対して、自分はその期待感(結果期待)という期待(効力期待)や自信のことを自己効力感という*)を育むという意義があるとのこと。うまくできなくても、人と比べることなく自分自身が「気持ちよかった。楽しかった。また、やりたいな」と思えればそれでよし!!

会場に流れる空気も徐々に和み、雪解けの季節にマッチしたさわやかな研修会となりました。

わあ、お出かけ!



春の陽気を感じ笑顔いっぱいでお出かけする利用者

幼なじみの79才。芳さんが電話口で泣くのです。事情を聞くところなので。47才の息子が事業に失敗して、この家を売って助けて欲しいと言ってきた。一人暮らしには広すぎだし、物騒がせな世の中だから、ケア付き高齢者住宅に移ってくれ。妹も俺も安心していられると。

そんな事、急に言われても…と、オロオロする芳さんに、母さんなら明るいし、社交的だから新しいところに移ってもすぐ友達できるよ、と息子。

亡夫と二人、力合わせて手に入れた庭つきの一軒家。ここで二人の子供を育て、近所隣りと仲良く暮らし、終の棲家と思っていたのに。でも、いつか世話になるかも

喜寿のハッピートーク No.34

しれない息子の苦境。助けてやりたい。でも家を売るのは…。とついで娘に相談したら、「そんな話持ち込まないで!子どもの受験で忙しいんだから。そんな兄さんに育てたのはお母さんでしょう」とにべもない返事。

そこで私、思わず大声で「家を手放したらダメ!!子は子、親や親の人生。子に頼らない、頼らせない。介護保険もあるのだし。血縁より知縁。血縁より結縁。頑張つて住み続けてね。」

グチを聞いてくれてありがとうと穏やかに帰ってきた芳さんの声にかぶさるように「芳さん居るう」とご近所さんらしい声に、なんとなくホッとして私。

相談役 坂巻 潤子

2月下旬から3月上旬にかけてのお出かけ企画。4コースの中から行きたいコースを1つ選択し、さあ、お出かけ!「映画鑑賞」コースでは、映画館ならではの迫力ある映像にビックリ。「ゆつたり温泉」コースではのんびり温泉につかり、気持ち良かったとのこと。「つるしびな」コースでは、色とりどりのひな飾りにうっとり。「ネコの写真展」では、かわいいネコの写真に「めんこいな」と笑顔。戻ってきた利用者の顔を見ると、とてもいい顔をしています。

交通手段が少ない西和賀町。行きたくても外出が難しい利用者もいます。このような楽しみを持つことは、私たちの生活にとっては大事なことです。今回のような企画は、利用者の希望する暮らしを叶える1つになったと思います。

千葉 伶奈

恵方巻100本届く



御礼の言葉を述べ、恵方巻を受け取る利用者(右)

毎年、利用者が楽しみにしている恵方巻。2月1日(金)、マックスバリュ東北株式会社様から、今年も100本贈呈していただきました。また、今年は社員の方2名が利用者と一緒にワークショップの屋根の雪下ろしをしてくださいました。例年と比べると雪の量は少ない…とは言っても、西和賀の雪は多い!おかげさまできれいになりました。

お待ちかねの恵方巻。丸々1本を無言で食べる人、おかわりをする人…。みんな美味しくいただきました。利用者代表のあいさつでは、「来年もよろしくお願いします」とちゃっかりおねだり。お腹いっぱい、大満足なものでした。なお、この様子は、地元テレビ局の夕方のニュースで放送されました。後日、「○○さん映ってたっけ」など大いに盛り上がっていました。

千葉 伶奈

頑張れYさん!!

「禁煙チャレンジしてみよう!」と強い意思表示を示した喫煙歴40年以上の利用者Yさん。西和賀町の保健師が計画的に支援する「禁煙チャレンジ」に応募し、その取り組みが始まっています。具体的には、禁煙治療に使うニコチンを含む貼り薬を、医師の処方により腕や腹に貼り、禁煙による離脱症状を和らげます。それと同時に定期的に保健師がカウンセリングや継続していくための指導を行います。

当施設では利用者、職員の中にもまだまだ喫煙者がいます。止めたいと思ってもまだまだ喫煙者がいる中で、Yさんの決意は立派としか言いようがありません。今回のチャレンジが成功し、他の人が触発される機会になればと思います。頑張れYさん!!

山本 優太



肺の状態を測定するYさん

過疎地域と車

西和賀町は10月1日から、誰でも利用できる町民バスの運行を始めました。現在は試験期間として運賃無料ですが、2019年10月からは、運賃が1回100円となる予定です。町民バスは湯田、沢内両地域をそれぞれ5地区に分けた計10路線で、湯田が1日1往復を週2回、沢内は1日2往復を週1回運行しています。これまで路線バスが走らない地域も回り、通院に加えて、移動、買い物、交通手段が増えたことになりました。しかし、この背景には、その他路線バスの本数減や路線廃止などがあります。廃止路線に関しては、乗合タクシーを運行し対応していますが、都市部と比較しても利便性は雲泥の差です。

人口約5700人、高齢化率約47%、豪雪地帯であり、南北約50km、東西約20kmに地域が点在する西和賀町。交通手段の確保は暮らしに大きく影響します。昨今は、高齢者の自動車運転免許返納を促す、若者たちは「車離れ」なんて話もあります。しかし、一方では高齢になっても免許の更新、車の所有が暮らしを大きく左右する過疎地域が増えているのも現状なのです。

高橋 和也

グループホーム便り

独り立ちの二歩に



先日、盛岡でWALKMANを買ったA君。使ってみると不具合が。早速、電話をして状況を説明したが、返品・交換は一週間以内に店に持ってくるように言われてしまった。外出や通院はいつも職員や先生が付き添っていた。卒業後このグループホームが選ばれたのも、バスや電車が苦手な彼が徒歩でワークステーションに通えるからだ。けれど今回は、自分が行くしかなかった差しならない状況（にしたのだけれど）。バスの時刻を調べてもらい、行く先々の情景をネットで確認する。「時間ピッタリにバスはこないかもよ。」「どうしようもなかったらタクシー使って。2万円。」「店でうまく伝えられるか、感情的にならないか。彼の独り立ちの一步にかえられるのか、想定される失敗に対策を講じながら、

送り出す側も挑戦者だ。

その日の夕方上司からの電話。「さもないことなんだけど・・・A君無事に帰ってきたって。」「・・・ああ、それは良かったです。」「気になる道中記を聞かせることも尋ねることもお互いしなかった。一人の若者が片道50km以上の盛岡まで出かけて用を足して帰ってきただけの「さもないこと」。けれど、心配が大きかった分だけの安堵と、「ふっ、やってくれたわよ。」「とても言い伝えな喜びが伝わってきた。その晚、いつにも増して饒舌なA君だった。

高橋 順子



日常も非日常も大切な時間

施設長敬白

西和賀町のお隣・横手市の反骨のジャーナリストむのたけじさんが亡くなられたのは平成28年8月、101歳でした。むのさんの講演を初めて聞いたのは高校生当時で、その後も著書等に触れていました。故郷で「むのたけじ展」が開催されているということで横手市雄物川郷土資料館へ。遺品等も展示されている雄物川図書館にも行ってきました。第二次世界大戦中、朝日新聞の従軍記者として戦地に赴き、本社に戻ったあとも戦争翼賛記事を書いていたことを後悔し、8月15日に辞表を書き、横手に戻り「週刊いまつ」を発刊しました。「よい戦争などない。あるのは悪い戦争だけだ」と市民の目線で訴え続けました。むのさんの言葉です。「為政者は真実を隠す為に国民の目をそらさせようとする」「ニセモノはみんな仰々しい。ホンモノはみんな素朴だ、ひっそりと」「『数の力』は暴言。『質こそ力』が本物デモクラシー」。統計不正、ここ数年政界で起きている隠ぺいなど、むのさんならどんな言葉で警鐘を鳴らしたのでしょうか。こういう時代だからこそ、むのさんのような人が必要としているのだと思います。

施設長 石川 紀文

編集後記

例年になく早い雪解け。交流ホールのテラスでコーヒーを飲む季節がやってきました。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

高橋 和也